

賈卜先生糠依後篇

乾

9
3883
2



門 9
3883
2



賣^い下^く先生^{せんせい}糖^{とう}俵^{たう}後^ご篇^{へん}序^{ぎょ}

公^{こう}解^{かい}まゝ何^{なん}ものし^しや^や辨^{はん}と^として

智^ち成^{せい}飾^{かざり}うん^んと^とす^する^る飲^のみ^みの^の糖^{とう}

俵^{たう}を^を非^ひなり^りや^やと^とあ^あふ^ふれ^れ糖^{とう}俵^{たう}

と^と是^ぜか^かつ^つも^もと^とも^も新^{しん}名^め過^{あやまち}は^は知^しる^る

早稲田大学 図書館
27.3.1 雙
藏 書

非を似せたるはなほ

言

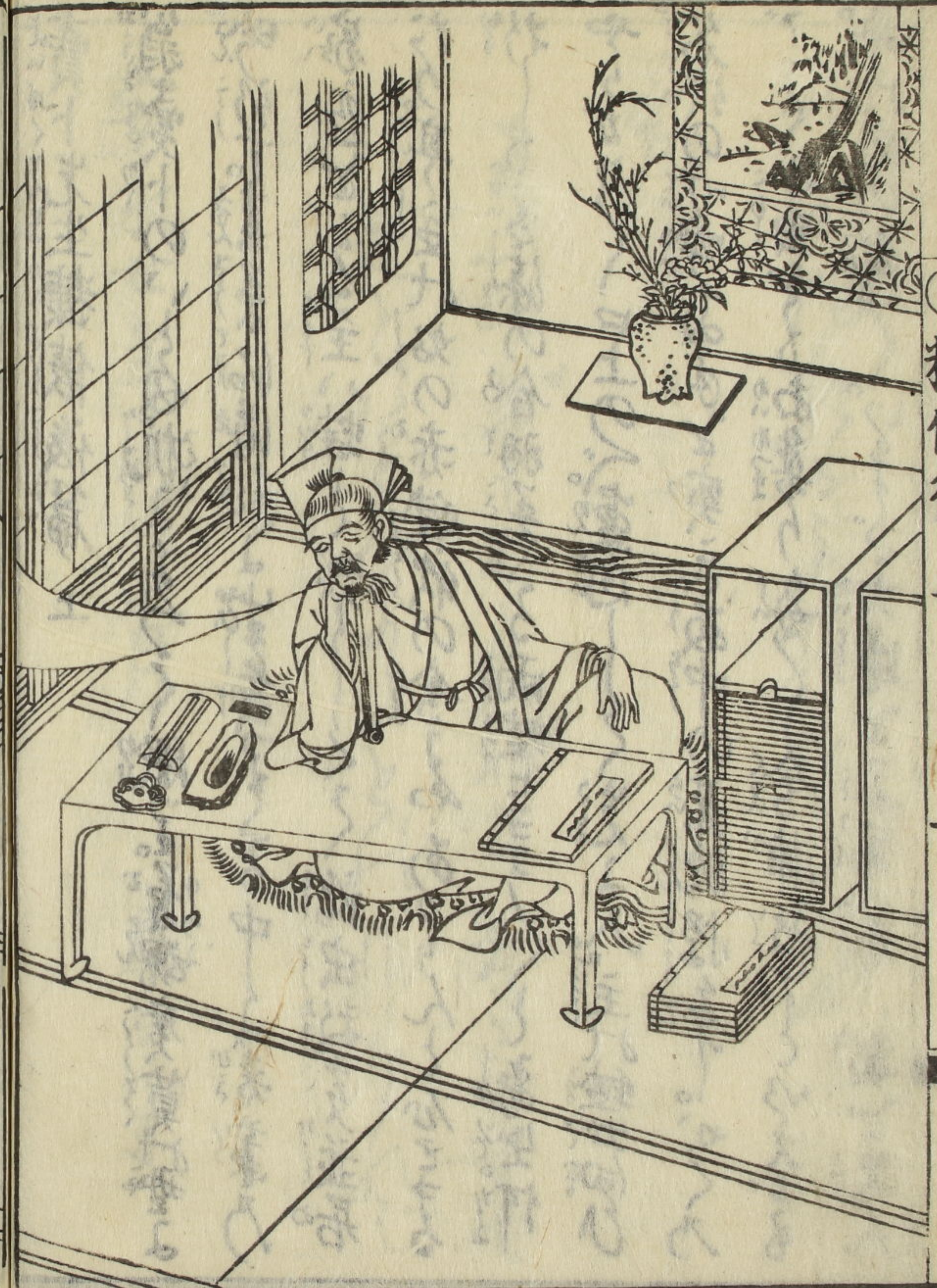
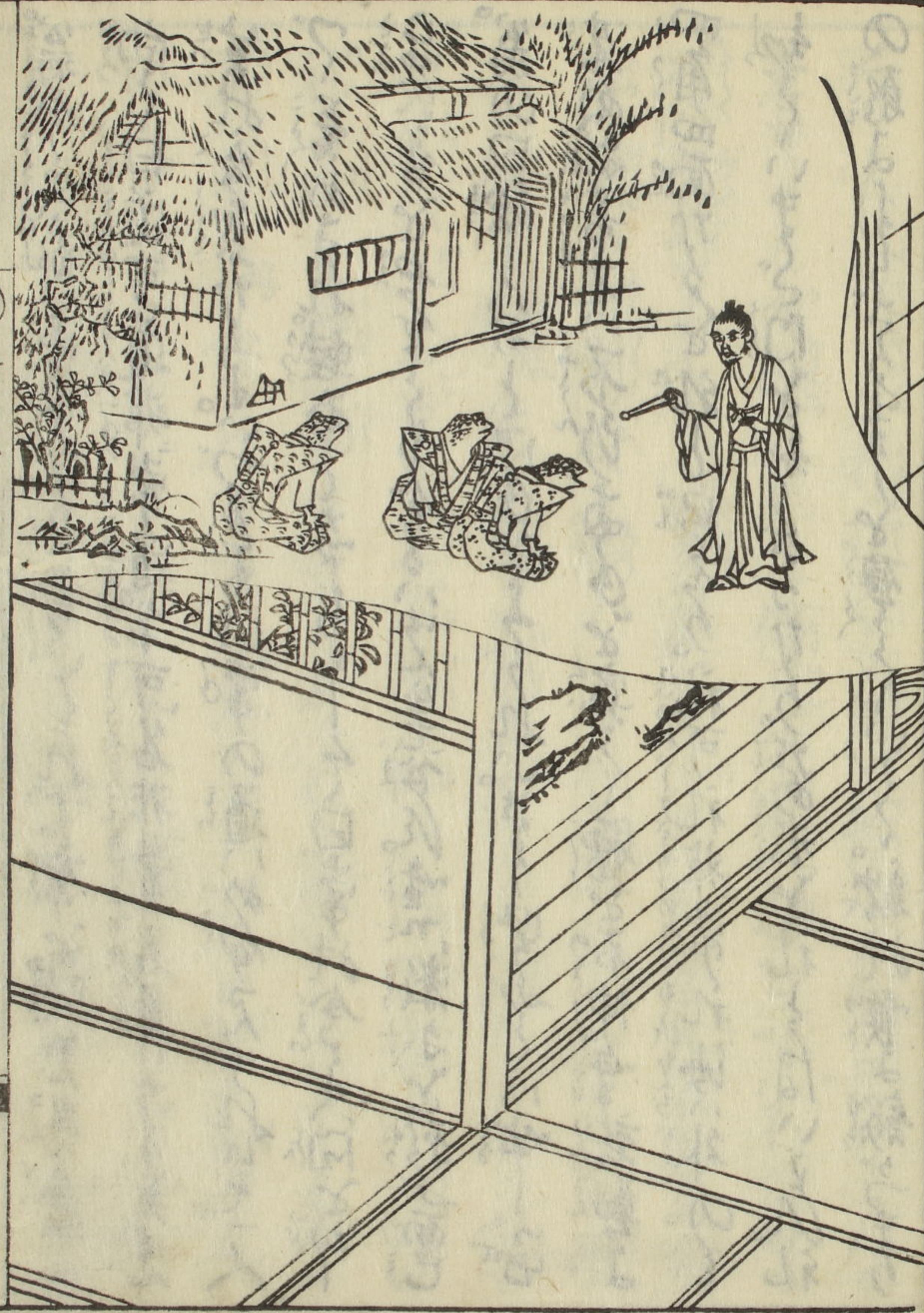
あふの是もわと非も我とのふて
是とほむしとれ非なるぞ

安永七年戊戌正月

虚白素

賣卜先生糠俵後篇上

翁賣卜のいとも机よりつと眠つて夢魂廣莫れ世は
吟りすまゝなるは海影よまゝ底つとる中よまゝ葉乃
家あどとる主ハ蛙とがくくく治虫故多並居
たり耳主れ如の赤蛙秋の舎やあふんと心こする
わしもまゝ漆の合羽着る雨蛙ヒヨクくとお出何
やうがりく口上のぶ案因しと先よ入主れ蛙おひ
名代のひねあふと突さぬ中の本陰怪多りかくろ
ごとく小虫ともお集り毎く金押致すといふも
井れ肉の我くといふと大道と石戸希ハ教と又ん



くらゐむ時ときはまゝ子こ打う叩たたくも危あやうと救すくはん是これ不孝ふこうなりん
 孝こうなりんお母おははがごとき倅はなれ見みの者ものハ親おやを打うハお孝こうなり
 叩たたハおれなりとよく驚おどろおとすこん是これ孝こうお不孝ふこうお安やす
 室むろの関せきの金割きんわり校けうも忠ちうといはんおれといはんお嬢おぢやう
 おも満みちるははとちもちもちもははにれなりとお言い言ふ
 也こゝろはお外かう不孝ふこう不忠ふちうは似よと忠孝ちうこうなりすひ
 礼れいは中ちゆうる鍾しゆうの面めんは水みづもあつねが安やすとよく可いまは
 是これハ道みちはゆふぞれハ道みちは背そむなりと道みちと挺てはちやん人ひと
 けり。是これハちやんとすべしとちやんと常つねの道みちはけり
 とけ万ばん古こ不ふ易えきとけ道みちといへんぞ本ほん然ぜん乃なり妙めう也なり

古とて山々石言筆とて不可書

次なるハ鱗とてんえとて曲なりと横は歩り一見識
ありて事ハ蟹這出と曰我ハ心のすぐなとて成
形ハ横とぬりてと不細心とぬりて形ハ横と若
ハ横の曲とぬりてと残る忠ハ武文蟹の脊と忠
孝二ツがとて今一付んそ形の塊とぬりてと忠
斜なれどもぬりてとぬりてとぬりてとぬりてと
とぬりてとぬりてとぬりてとぬりてとぬりてと
則ちれとぬりてとぬりてとぬりてとぬりてとぬりてと

雲ハぬりてとぬりてとぬりてとぬりてとぬりてと
とぬりてとぬりてとぬりてとぬりてとぬりてと
其形のぬりてとぬりてとぬりてとぬりてとぬりてと
とぬりてとぬりてとぬりてとぬりてとぬりてと
とぬりてとぬりてとぬりてとぬりてとぬりてと
とぬりてとぬりてとぬりてとぬりてとぬりてと

田螺どのぬりてとぬりてとぬりてとぬりてとぬりてと
とぬりてとぬりてとぬりてとぬりてとぬりてと
とぬりてとぬりてとぬりてとぬりてとぬりてと
とぬりてとぬりてとぬりてとぬりてとぬりてと
とぬりてとぬりてとぬりてとぬりてとぬりてと
とぬりてとぬりてとぬりてとぬりてとぬりてと

戸を閉くも人々門戸たはるる中へ是れは中へ是れは中へ
堅固なるの益を田螺の日益とてむくもむく
換せむとてむくもわくは我利のむくもむく
あふはるるむくもむくもむくもむくもむくも
ども灰くもむくもむくもむくもむくも
睡を合するもむくもむくもむくもむくも
中へはむくもむくも死とてむくもむくも
といふんは是れは中へは中へは中へは中へ
者へ中へは中へは中へは中へは中へは中へ
死とてむくもむくもむくもむくもむくも
然も不欲むくもむくもむくもむくもむくも
かへも不欲むくもむくもむくもむくもむくも
トやむくもむくもむくもむくもむくも
いふ可道の乃とむくもむくもむくもむくも

次ハ中へは中へは中へは中へは中へは中へ
とては中へは中へは中へは中へは中へは中へ
書物の中へは中へは中へは中へは中へは中へ
さへ中へは中へは中へは中へは中へは中へ
翁の曰は中へは中へは中へは中へは中へは中へ

小唄ぐさくしよハ誰どと聞あさう致あるの自主
の所と成て上ハ人々信の門も入下ハ母所がま
ほこれ度存しと交り竹林よ撫ひくハ賢れ業と
下目あるく餅搗くはれし上ハぬ就れ所おひ
られどもゆとやハ地社中水門刻水と大海と梅
一本の所新くありやうと出来のひく七流ハ海鳴呼
出せとされはあうとれう致あるとゆめく曰うれ
るるふへハ成お世方の縁組とんや挑灯ハ釣鐘よ
娘へく播搗りうとれとる飾腰えお多連る

とんくハあやうとれじやの仕合のと代の目うハ
らやあともかふらうとんぬハくね根が釣合ぬ縁組
なれば姑小姑よもゆ多く一家の仕合よとていめ
も外世入の者もまぐ思ひのかり心とまひ思後の者
もとまよあひて山の草が由内まなりめつとてあ
くかありと山口なり成所時ハ所とさうとさうち
ならんまあましくもさあなり能く養子よ入付よま
あまもかり造作かき事とやの果報とやれ金
うハねとそんともふまぐあやうとまがきうとけい
やう若くむやう氷雪の厚く居ハ業とやとんゆき

どもはよきものを世に流るるれ我もも亦水に流る
時金魚れ口をきり申かよりのひり食す
こもきりものきりハ世の身かれども亦水に流る
きりものきり。物きりハきりものきりハ世に流る
とこハ平れあつても金とあつてもおれハ世に流る
心のきりものきり。きりものきりハ世に流る
ものきりものきり。きりものきりハ世に流る
て世よすむひハかきりものきりハ世に流る
す。我翁の曰。汝求る心ハ何ぞ。きりものきりハ世に流る
清きハ世に流る。きりものきりハ世に流る

海にきりものきり。きりものきりハ世に流る

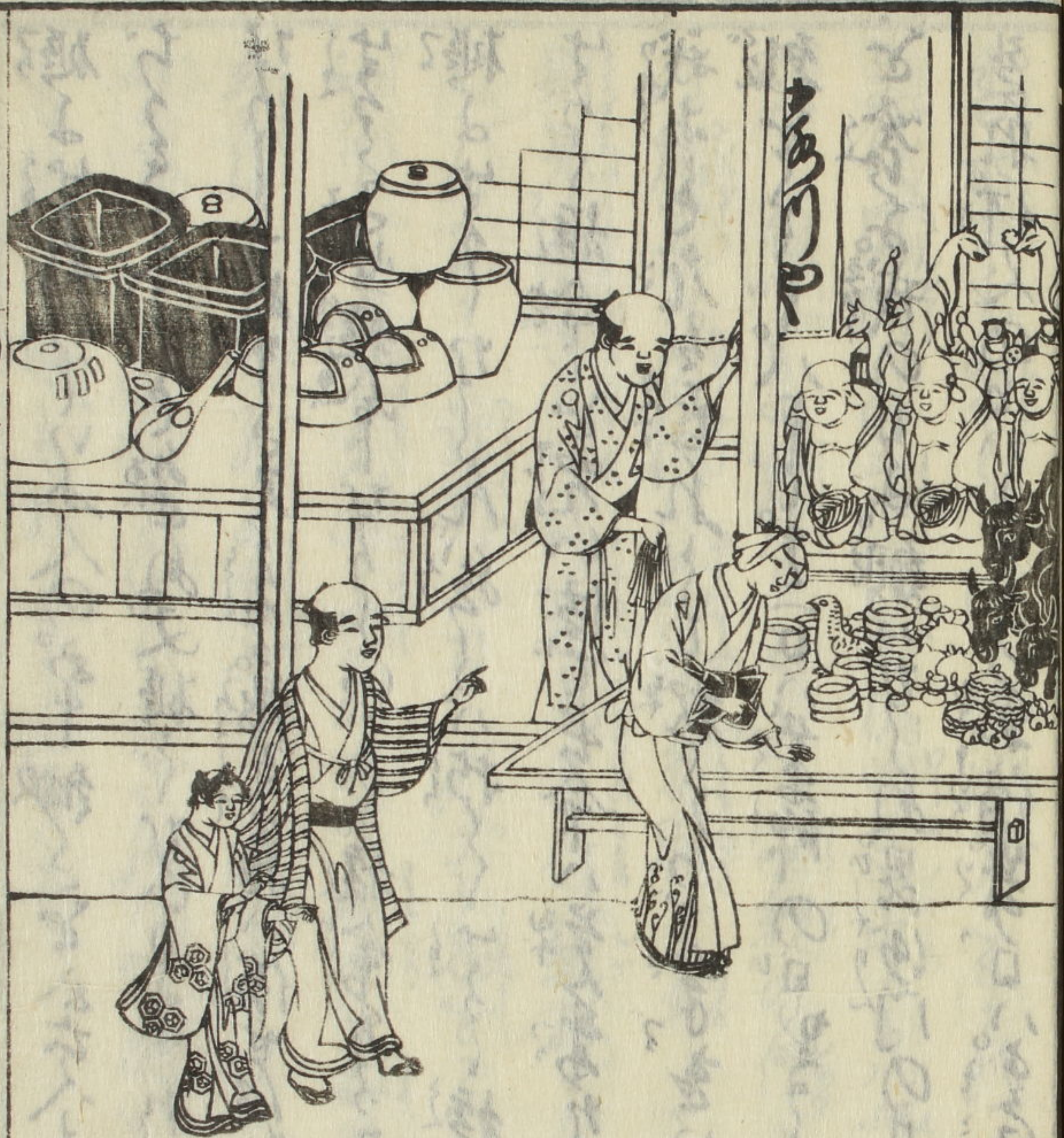
翁も亦ハ世に流る。と天眼流る。きりものきりハ世に流る
きりものきり。きりものきりハ世に流る。きりものきりハ世に流る
ころ甲斐のあつた水虫の曰。翁伏見街にきりものきり
んずや牛もきりものきり。きりものきりハ世に流る
もきりものきり。きりものきりハ世に流る。きりものきりハ世に流る
金魚出魚もきりものきり。きりものきりハ世に流る
きりものきり。きりものきりハ世に流る。きりものきりハ世に流る
きりものきり。きりものきりハ世に流る。きりものきりハ世に流る
きりものきり。きりものきりハ世に流る。きりものきりハ世に流る

いふことも万物のひとしく翁の末生と前と我水虫
の末生と前と二つ次二つ次我命短く翁の命長しと
いふことも宇宙の窮りとよりんれハ毫髪と云ふんや
翁目とむねと曰ちこそさし水虫ども許しやて
なりく走るべしいふものハ不知なるものハ不言鳴呼云
なり。林檎なり事なりやつゝもを修りてさされ水虫
再許し〜曰希ハ教と云ふ人翁微笑〜曰や〜む
らくハ汝いふこと死とけられと云ふ死なり人とも生
と云ふ〜

翁又覺る〜いふことと云ふ止〜今れものハ海とや不
信お代交易と業と〜洞蛇坊〜信す。今加
有〜ト居せん〜欲と。先生ト並微妙なり事
かりんれなり〜千里と遠〜とせん〜とある乾坤
光聖吉凶如何。少考〜翁目とすり〜顔と
なりぬ。衣我と云ふ顔もほの〜曰。我もハ不き文
盲〜と。角かまふハ讀〜と。めせら通角の在い
と云ふ〜作〜れいト居〜ハ宿習れ事。次交易とハ
ある〜と。いふ事。高人の能とぬと云ふ〜ハ。あお
〜と。のよ音〜のお知りが〜と。云ふことと云ふこと

夜寝付ておぼげくし。商人、奥い所へ潜るもなり。商人
人の防世をなさるまゝ。心付わ如き。成通塞乃
変むなり。客者、毎く曰。賢者、よ不遠四萬
前より来る。よなり。よ不ぬ。この屋とんせす。と
氣と賊と。世をたぬ。いものも有。都よ。内後の者
と。化と。と。いひの。か。なり。費多。く。づ。ふ。よ。く。す
御。そ。び。多。前。の。連。れ。た。六。師。も。か。ぶ。ま。の。元。遠。り
翁。れ。曰。跡。ろ。ん。く。四。年。あ。も。多。く。と。突。か
く。一。家。明。友。と。お。た。け。け。式。も。さ。げ。人。も。耗。
縮。る。ま。は。八。袖。ほ。ひ。さ。き。も。ま。は。八。毛。師。ぬ。指。

めく。防。世。せ。ば。通。塞。せ。ば。潜。る。よ。客。れ。曰。拙。者
と。も。是。す。く。よ。人。の。見。上。は。あ。と。ん。く。ハ。き。く。ハ
不。そ。諸。り。り。せ。め。く。四。五。年。ひ。あ。も。末。の。は。ま。あ
れ。は。は。家。を。補。ふ。お。お。き。う。く。人。の。心。さ。え。う
さ。い。ん。え。く。我。身。の。く。ハ。か。え。り。水。海。う。ろ。り。と。前。う
帆。と。さ。げ。く。梶。の。み。板。あ。え。さ。よ。械。の。追。つ。め。板。の。ぬ
今。更。は。悔。翁。の。曰。盛。衰。ハ。世。の。な。り。ひ。は。ら。い。う。め
事。か。く。も。貪。令。と。突。か。う。れ。ゆ。え。あ。り。う。あ。い
賢。令。と。突。か。う。と。ハ。後。恨。む。め。り。の。事。で。ハ。な。い。あ
事。よ。貪。令。突。か。う。と。く。知。る。と。さ。う。く。と。う。と。さ。う。と



土人歌
たろ

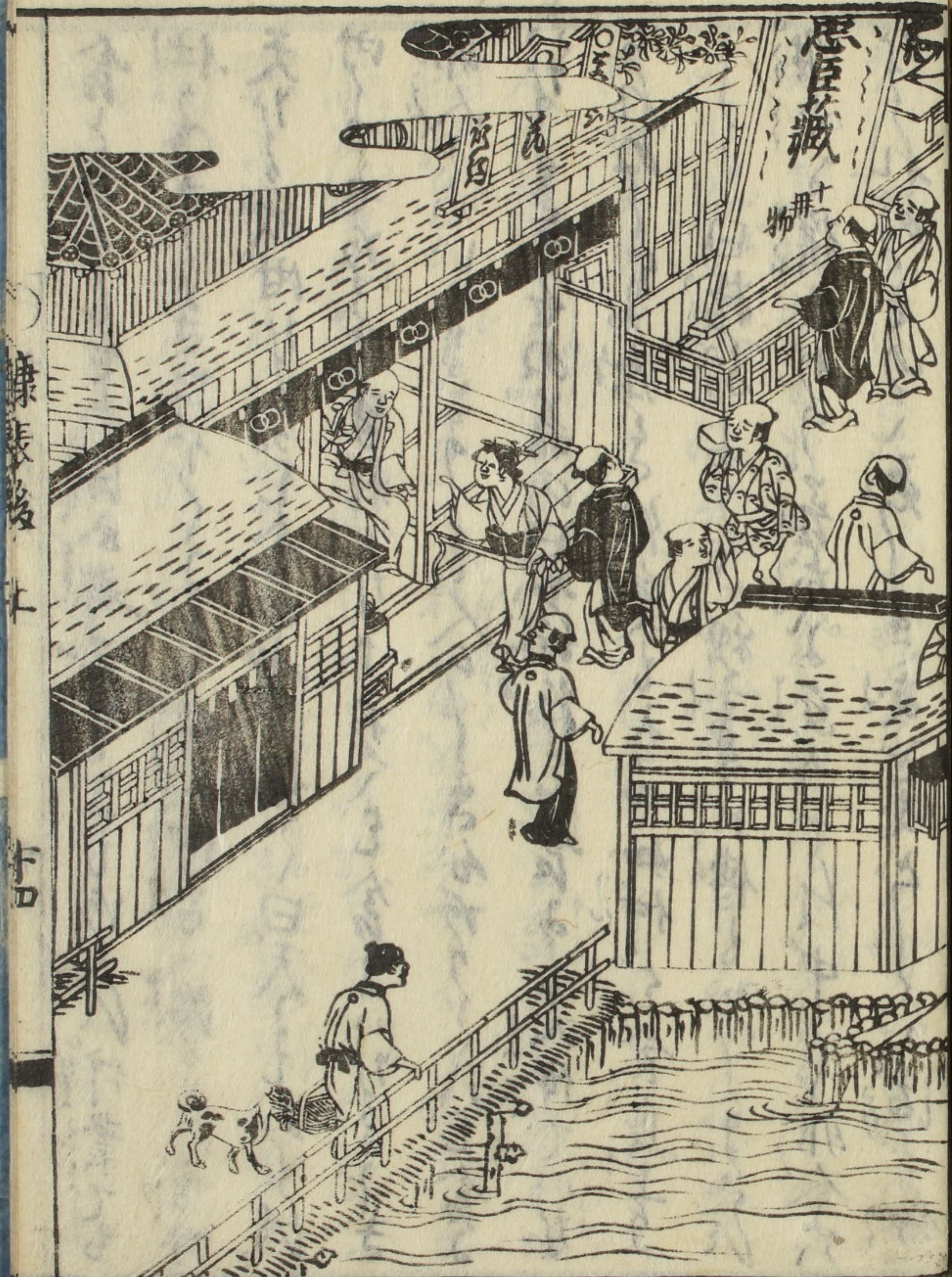


ゆんと辛まけよひはく。腹入ぬ。吾ハ泣きのあま
もあへん。その密棋畑。十町奉もまはく。あまをさ
と打志ま。何のくゆま。なり。三町四町。て懐
ます。小登れ。ゆり。数人え。貢も。東海。人の密
棋。よと。擲る。登人。よ。おの。法。み。人。と。注。も。読。も
所。入。ま。す。注。り。く。し。立。り。畑。主。何。某。か。る。密。を。れ
あ。い。い。言。ひ。の。健。ま。感。じ。さ。め。く。考。ひ。ま
自。叙。中。へ。送。り。希。ぬ。ま。密。棋。め。く。食。も。す。く。日。め
ら。注。り。く。全。使。一。母。子。と。も。に。今。ま。ゆ。り。ま。後。お。向
て。曰。密。棋。と。注。り。ま。事。叙。の。お。の。注。り。注。り。考。ひ
なり。く。ひ。注。り。ま。事。叙。の。お。の。注。り。注。り。考。ひ
い。ま。事。も。注。り。ま。事。叙。の。お。の。注。り。注。り。考。ひ
さ。注。り。ま。事。叙。の。お。の。注。り。注。り。考。ひ
と。注。り。ま。事。叙。の。お。の。注。り。注。り。考。ひ

拙者ふはハ唯ハ注りま。志ま。と。り。ま。あ。れ。ま。事。と
指。と。注。り。ま。事。叙。の。お。の。注。り。注。り。考。ひ
ま。事。叙。の。お。の。注。り。注。り。考。ひ
蛙ハ畑。と。り。ま。蛇。と。り。ま。蛇。と。り。ま。蛇。と。り。ま
猪。と。り。ま。蛇。と。り。ま。猪。と。り。ま。蛇。と。り。ま。猪。と。り。ま

人もあり。いづれへて浅き。又淺きも一日の業に外
なり。いづれか。是も忘れて苦しくぬ事なれば。がれ
不義遇のある時。さうは因果の外なり。と乃理と對
自他とも。いづれハ教する人もあり。是亦ハの志を忘
し。ちやうどばちく人々。若智く女房と忘れ
た。あつて。いふや。おろそかに笑。禪と忘るゝと忘れ
尾かけ。いづれをえん。指す。ちやうど笑。さう人
の中にも。一部の怒り。よき恥と忘る。人もいづれ。
さうと忘る。小な。不忠。不孝。非義。此乃ち端ハ。皆我
身と忘れ。いづれ人より。すや。客の曰。翁先ハの志と況
愛ハハの志と。後万幸。忘れ。可けん。曰。不可
可。忘る。不可。忘る。不可。忘る。不可。忘る。不可。
未可。天道ハ。す。而。不。忘。事。れ。竟。天下と忘る。
天下と忘る。孝子ハ。孝と忘る。孝子ハ。孝と忘る。
忠と忘る。忠と忘る。忠と忘る。忠と忘る。忠と忘る。
これども。規矩と不。知。よく。信。ふ。もの。ハ。毎。日。と
為。免。されども。拍子ハ。今。魚ハ。湖。にお。忘。る。人ハ。道。は
お。忘。る。

某男子二人^{とある}。想^{おも}飲^みハ先^{さき}十人並^{なら}之^を。是^{こゝ}より速^{はや}也^{なり}。清^{きよ}す。



康張後

下四



柳傳後

下三

食とたりもせぬ。母と群をよもゆべ。竹葉でも
仕ふきまきつぐくも。非人仲なり。端のし。呼
天の歎。附たり。食のあり振。曰。天うもあ。氏。
附のとりず。皆私なり。おくも食ふはなす。ま
非人といふまき。人り。さむり。い。食
い。まきせぬ。翁の曰。や。板を食めし。大伴でいな
られぬ。所。後。受も。や。如何。食。身。上
。日。格。あ。秘。事。口。傳。も。あ。り。ま。き。に
唯。文。と。撰。よ。あり。吾。友。よ。交。り。て。中。中。非。人。よ
な。れ。ぬ。もの。あ。も。友。と。交。り。も。も。飲

おひ。壺。も。は。さ。ち。ひ。露。屋。な。事。と。嫌。ひ。夜。振。び。と
好。ま。小。博。奕。も。打。ま。く。も。親。の。言。け。と。さ。ぬ。板
か。伯。父。叔。母。れ。ま。え。ん。と。ふ。用。も。食。り。な。ぬ。あ
ぬ。板。よ。身。と。り。く。バ。板。よ。は。も。食。り。な。ぬ。あ。ぬ。ま。き
人。も。ゆ。い。は。候。れ。知。い。あ。ま。き。交。り。ま。き。り。ま。き。り。ま
俵。れ。ま。の。味。と。ま。く。新。り。向。と。才。あ。り。い。ふ。名。あ。て
い。賞。食。は。わ。り。ひ。こ。ち。も。千。つ。う。り。か。ぢ。り。お。ひ。な。ま。は
漆。ち。よ。塗。が。け。と。述。す。う。は。従。く。ま。人。妻。み。け。目。を
秘。ま。く。後。人。よ。知。れ。く。も。知。と。知。く。ま。く。れ。い
ま。う。ん。と。す。る。い。あ。く。若。の。伯。母。も。く。む。く。海

後ハ行儀よく侍もなり。れんはふてん
是れども、食ふにたずんて天候、時を可^し疑^ふ
毎小童と侮^ふぐ曰、米でも、後でも、もつと啼^くせ
澤^しよ、あハ方、あれ、怒^るれ、あつて、ひ人ハ怒^るぬ
の交^はり、お彼^れ等も、あつて、ずんハ、食^ふを、あハなる
す、さ、だ、く、あ、人並^み、あ、は、麻^の中^に、遊^ぶと
ん、能^く人^をよ、ま、く、人^のく、た、と、あ、人^とハ、言^ひれ
ず、必^ず余^のは、の、で、ハ、食^ふを、あ、あ、人^のの、あ
ん、て、我^が振^るな、と、せ、子曰、三人行、必^ず有^る我^の作^る焉、撰^る其^の善^き
者^を而^{して}、後^に、之^を其^の不^善者^を而^{して}、改^む之^を

拙者^は、善^きと、後^に、す、は、月^に、占^る移^る。一、世^に、年^に、ま、て、ハ
親^の代^に、も、時^と、と、合^ふも、人^のお、替^りな、れ、と、も、法^に
た、も、も、謝^る、と、あ、け、角^に、な、り、く、後^に、く、も、あ、り、猶^も
あ、も、わ、く、建^た、立^た、に、移^る、く、お、の、日^に、鬼^の、あ、さ、り
れ、事^が、り、お、是^は、ハ、世^に、あ、り、と、も、深^く、と、あ、り、ま、は、免^る、と
わ、さ、す、ハ、二、年^に、又^も、れ、道^を、と、改^む、と、考^へ、と、可^し言^ふ、ハ、子
曰^く、あ、ん、く、と、り、是^を、と、く、親^のは、あ、り、一、事^に、れ、あ、て
あ、る、ハ、い、あ、は、不^善、と、不^善、は、な、り、事^が、あ、り、と、も
改^む、と、考^へ、と、り、あ、り、と、親^の代^に、と、ま、た、り、と、改^む

中へも^し程^{ほど}管^{くだり}へ送^{おく}る母事ともしくあきにもい
 老母を^{おふく}送^{おく}らんといは我身とんまうらぐま
 なりげに^い後^ごか^か内^{うち}探^{たん}探^{たん}必^{かならず}ち^ちを^をあきこ
 おひき^{おひき}赤面^{せつめん}せし事ありき世と人との違^{ちが}
 ぬと能^よ人^{ひと}の交^{まじ}りて人の人たるを可^べきとお
 よき^{よき}南^{なん}が不^ふ由^ゆは母人の子問さいも帰^{かえ}
 事れや一^{ひとつ}の云^いえことと已^{おほ}く好^{この}なりしや^や嫌^{きら}な事歟
 弟^{にい}維^い子^し運^{うん}次^じ周^{しゅう}露^ろすゝ何んぞのよめこそは
 学^{まな}問^{もん}の力^{ちから}母^{はは}ハ知^しる速^{すみ}ひく邪^{よこしま}詭^ぎの溜^{ため}みぬ又
 こゝろえハた^た女^{むすめ}く見^みる下^{した}法^{はふ}乃^{なる}をも過^すぐるハ形^{かたち}不^ふ

及ぶごとく掛おなりとも唯一幅なりともバも正月も
 めも其一幅めくお自由なりとすなり。二幅も三幅も
 とすもや不自由な成ぶとす。こ法め掛お一幅
 かりの庚申侍のうかりの戎講のうかりめれと不
 自由なけ。花はなにも同じ事。膳挽するおれお
 もも毎り負まれハ却てお自由れ。是も他りて
 乃を知らハ方くもお自由ななく。すくも又不自
 由ななり。おける或人の單着を求めとて。中
 らせく曰。是ハあつ大家に拂とのめく。今新し
 調へバ。お中あも出い。とを我等ト直めて求く。

かりそめれも乃々全そ如けの結海はくめ今も年
ふ十今も掛りーり。是やどな棄すハ大能辨ハ
清きもふもあめされーとひかりと傳りぬ
引ハ日人の過とるつ甚又たを求めらうと先
ハちあの下程古でもめさうー倒の悪口あて
笑ぬ

上之巻終

